

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	阪本織布株式会社	代表者	阪本壮一	法人・事業所の特徴	自然に囲まれた空気の良い環境の中で、一人一人に寄り添ったケアを心がけること、笑顔絶やさず、挨拶ができること、利用者様も家族様も職員も楽しく生活ができること。地域の催しものに積極的に参加したり、施設行事にお招きしたりすることで、地域との交流を大切に開かれた施設運営であること。敷地内にある農園での野菜作りや収穫、それを使っての調理で季節を味わって頂いたり、足湯や散歩、買い物等の外出レクで気分転換を図っている。家族様にも季節ごとに行うイベントには声をおかけして一緒に楽しんで頂いている。小規模多機能としての機能を十分に生かした柔軟な取り組みを行っていること。常に職員の言葉使いや身だしなみの改善に努め、社内研修を計画的に実施し、今後も継続した職員育成の場を作り、一人一人の力を高めてサービス向上に努めている。
事業所名	ちいさなぶどうの家 2番館	管理者	片岡大輔		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	5人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 情報共有はきっちりと職員周知できるよう行い、利用者の既往歴等の知識を身につけるようにする。</li> <li>② カンファレンスで一人一人が意見を発信していけるような場の雰囲気作りを行う。</li> <li>③ 利用者の今までの人生の過ごし方や生活状況、人間関係を把握する。</li> <li>④ 施設利用以外の様子をカンファレンスで共有する。</li> <li>⑤ 小規模のサービスで出来る事、出来ないことを把握する。</li> <li>⑥ 担当者会議の内容をカンファレンスで発信し把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 情報共有はきっちりに行っているが、一人一人利用者の既往歴等の知識を職員全員が理解できていない。</li> <li>② 一人一人が発言しやすい雰囲気のカンファレンスを行えている。</li> <li>③ すべての理解と把握が職員一人一人できていない。</li> <li>④ 施設利用以外での様子も含めカンファレンスで共有を行えている。</li> <li>⑤ ある程度のサービス内容の理解は出来ている。</li> <li>⑥ 出勤日数の少ない職員にまで発信が出来ていない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 職員各自が発信されている情報・ニーズを理解できるよう職員間の声かけ・情報の共有を行う。</li> <li>② 出勤の少ない職員にもカンファレンスで話し合った内容を伝達する。</li> <li>③ 利用者とのコミュニケーションを持ちながら今までの人生の過ごし方や生活状況、人間関係を把握する。</li> <li>④ 利用者をよく観察し、施設利用以外での日頃の生活の様子を確認し、朝礼等で発信する。</li> <li>⑤ 利用者一人一人に目を向け、細かな情報を発信しお互いに声かけを行う。</li> <li>⑥ 発信された情報に情報共有の漏れが無いよう職員全員に伝達する。</li> </ul>

	<p>⑦ 苦情対応の振り返りミーティングを行う。</p> <p>⑧ 伝達研修する日を事前に決めておく。</p> <p>⑨ 言葉遣いに注意する。</p>	<p>⑦ ミーティングを行い対策を考えた。</p> <p>⑧ 業務に追われる中なかなか参加出来ない職員に伝達実施できなかった。</p> <p>⑨ 業務多忙時などに言葉遣いの乱れを感じた。</p>		<p>⑦ 家族、利用者からの苦情に対し改善策を職員で話し合い再発防止する。</p> <p>⑧ 伝達研修ファイルを作り参加出来なかった職員にも研修内容の閲覧が出来るよう行う。</p> <p>⑨ ケア面では隠語を使うなどし、職員の言葉遣いを注意しあう。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	定期的な掃除は行っているが、普段できていない掃除は日程を決めて行えていないため、フロアの状態を判断した上で行なえる日は定期的に掃除しているところと普段できていないところを清掃していく。	定期的な清掃を心がけてはいるが、実施出来ていない時がある。前年度よりは普段清掃できていない箇所の清掃は行えた。	なし	定期的な掃除は行っており、普段定期的に掃除出来ない箇所はその日のフロアの状態を見て掃除を行うように今後行うこととする。
C. 事業所と地域のかかわり	現在コロナ禍でイベント等を行っていませんが、再開されましたら随時イベント予定を家族様に発信する。	コロナ感染拡大の為、イベントができませんでした。	なし	現在もコロナ感染拡大の為、イベント等行っておりませんが、再開され次第、家族様に予定の発信を行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今現在はコロナ禍で地域の集まりや行事等は行っておらず、再開されましたら今後も継続し地域の集まりや行事に参加していく。	コロナの為イベントができませんでした。	運営推進会議の報告書よりコロナ禍であっても散歩や外出（サクランボ狩りや芋掘りなど）や地域との交流も困難な中「地域へ買い物へ出かける」試みは大変良いことと評価します。	現在もコロナ感染拡大の為、地域の集まりなど行っておらず、再開されましたら今後も継続し地域の集まりや行事に参加していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	事業所内での活動や取り組みを報告し、他の地域での行事活動や取り組みの情報を得る。	施設の新聞、ホームページ等で普段の皆様の様子を発信出来ていたと思う。	コロナ禍で外部構成員との運営推進会議が中止されているため、毎回報告書の配布や意見を求める等の工夫及び、議事録の配布がされたらより分かりやすく改善されると思います。（応援しています。）	今後も事業所内での取り組みや活動の報告をし、他の地域での行事活動や取り組みの情報を得る。
F. 事業所の防災・災害対策	引き続き避難訓練の実施と防災設備の周知が出来ていない人には勉強会など実施し周知に努める。	定期的に避難訓練等に取り組んでいた。	運営推進会議の報告書よりミニ避難訓練や設備会社主催の防災訓練が実施されていることを確認しました。	今後も引き続き避難訓練の実施と防災設備の周知が出来ていない人には伝達研修を行い周知徹底に努める。